

シンポジウム

「最新科学による西アジア文化遺産の調査と保護」

主催：日本西アジア考古学会

後援：名古屋大学博物館



講演者

西藤清秀（奈良県立橿原考古学研究所）

森島邦博（名古屋大学）

河江肖剩（名古屋大学）

渡部展也（中部大学）

西山伸一（中部大学）

野口 淳（東京大学）

2018年2月10日（土）13:00～18:00

会場：名古屋大学野依記念学術交流館

地下鉄名城線 名古屋大学駅 2番出口より徒歩10分程度

入場無料、事前申込不要

お問い合わせ：日本西アジア考古学会事務局

メール：office@jswaa.org

（お電話でのお問い合わせは受け付けておりません。）





開催趣旨

近年、無人航空機ドローン、SfM、3D レーザー・スキャナーなどの最新技術が文化遺産の調査の現場においても利用されるようになってきています。

最新の科学技術の応用は、現地調査に大幅な効率化をもたらし、かつてない精緻な情報収集を可能としました。また、西アジアでは政治的に不安定な状況が続き、アフガニスタンのバーミヤーン遺跡やシリアのパルミラ遺跡など貴重な文化遺産が多く被災していますが、こうした最新技術の活用は、文化遺産の保護にも大きく貢献すると期待されています。

急速に普及した最新の科学技術が西アジア考古学の現場に何をもたらしたのか、また、文化遺産の保護にどのように応用できるのかをテーマに、シンポジウムを開催します。

プログラム

13:00 開場

13:30 ~ 13:40 「開催趣旨説明」 周藤芳幸（名古屋大学・シンポジウム大会副実行委員長）

13:40 ~ 14:10 「パルミラ遺跡の将来」 西藤清秀（奈良県立橿原考古学研究所）

14:10 ~ 14:40 「原子核乾板を用いた宇宙線イメージングによるエジプトのピラミッド調査」
森島邦博（名古屋大学）

14:40 ~ 15:10 「UAV-SfM 手法によるギザのピラミッド群の GNSS 測量」
河江肖剰（名古屋大学）

15:10 ~ 15:20 休憩

15:20 ~ 15:50 「西アジアのテル型遺跡における調査支援パッケージの試案」
渡部展也（中部大学）・西山伸一（中部大学）

15:50 ~ 16:20 「デジタル時代の手軽な調査記録方法ーパキスタンでの取り組み事例ー」
野口 淳（東京大学総合研究博物館・NPO 法人南アジア文化遺産センター）

16:20 ~ 16:30 休憩

16:30 ~ 17:20 「オープン・ディスカッション」

17:20 ~ 17:30 「閉会挨拶」 門脇誠二（名古屋大学博物館）